

保健休養の場として県有林を開放

鞍岳・魚貫崎環境林整備事業



▲鞍岳登山道からの遠望

「登ってみればいいところです。四季を通じていつ行ってもすばらしい気持ちになること請け合います。」と行った人々は口をそろえて言っています。

植栽や附帯施設が整備されればもっと楽しいところとなるでしょう。ご利用下さい。

事業のねらい

熊本県内の百六十六か所に点在する約一万二千ヘクタールの県有林は、これまで県の財政に大きく寄与して来ましたが、言い換えれば、森林としての県有林は、木材生産の場として、その経済的効果が大きく評価されて来たわけです。

しかし、わが国の急速な経済発展のひずみとして、環境汚染等の公害が深刻な社会問題となり、また、国民所得水準の上昇による野外レクリエーションへの社会一般の欲求が増大しつつある今日、森林は別な面から見直されています。すなわち、森林がそれらの公害のブレーキ役として、あるいは、自然に親しむ保健休養の場として、評価されることが多くなりま

そこで、県有林の一部を、広く県民に開放する保健休養の場として整備し、あわせて、植物や野

生鳥獣も保護しようとする目的で始めたのがこの環境林整備事業です。そして、前記の県内に点在する県有林のうちから、特に自然景観が勝れている団地として選ばれたのが、この事業の対象となつた鞍岳団地と魚貫崎団地です。

県が行うこの種の事業としては、小岱山の保全林事業に次ぎ、一年遅れて昭和四十七年度から事業に着手しました。その実績と昭和四十八年度計画は別表のとおりです。この計画は三カ年計画です。で、最終年度の昭和四十九年度の事業を終えたうえで、昭和五十年四月一日から県民の保健休養の場として一般に開放される予定になります。

高原の鞍岳と、岬の魚貫崎、同じ保健休養林づくりを目的としながら、その内容はかなり異なっています。次に各団地ごとに自然を中心とした地域の概要と事業の内容等について記してみましよう。

鞍岳団地

1 地域の概要

熊本市の北東約二十七キロメートルの阿蘇外輪上にそびえる鞍岳(標高一、一九メートル)を西端として、その東斜面の鞍岳団地(九〇ヘクタール)は、行政区画上是菊池郡旭志村に属し、北東の境界は阿蘇郡阿蘇町との郡界になっています。阿蘇国立公園の特別地域内にあるこの鞍岳は、菊池郡内における最高峰として、古くから地元民の信仰の対象とし

でも知られています。

端辺原野から続いているこの一帯の傾斜は五ないし十五度とおおむね緩やかであるので、鞍岳は、老人子供でも比較的楽に登れる山といえます。さらに昭和四十七年度には林道新山線の開通したことから、旭志村から車で登るルートも完成し、いよいよ日帰りでもゆっくり登れる山となりました。

主峰鞍岳からの眺望は、東に阿蘇五岳を間近に仰ぎ、南東には九州脊梁の山々を、さらに左に目を転ずれば、祖母、九重連峰と、九州の高峰が一望に見渡せます。西を見れば、眼下に見える新熊本空港、南西にのびる熊本平野、なじみ深い金峰山や雁回山、そのはてに光る有明海と、東側の風景とはすっかり趣を変えています。

この団地は、拡大造林により大部分がヒノキやスギの造林地となっています。しかし、鞍岳からツルシ山の山頂を結ぶ稜線沿いには、自然林も残っています。植物としては、木本類では、ミヤマキリシマをはじめとして、ベニドウダン、ミツバツツジ、ヤマツツジなどのツツジ類が豊富で、この外、アセビやイヌツゲなどの低木が多く見られます。なかでもクサボケの群落は、学術上大いに注目されているところでもあります。草本類ではハルリンドウ、キスゲ、ノハナショウブ、ワレモコウ、リンドウ、ウメバチソウなどの可憐な高原の花が、春から秋にかけて見られます。

野鳥類としては、二十数種が観察されており、春のウグイスの外、クロツグミやホオアカなどが特記されるでしょう。このほかには、冬季の霧水や雪花も忘れてはならない自然のひとつといえます。

2 事業の内容

昭和四十七年度に実施した主な事業としては、造林地に自生する下刈り対象となるミヤマキリシマ、アセビ、イヌツゲクサボケ等を展望所や広場の予定地へ移し植え、ヤマザクラやケヤキの並木植栽、樹木園の造成、散生地へカエデ類の配植等を行っております。

昭和四十八年度は、前年度植栽した個所の手入れの外、野草園、野鳥誘致のための食餌植物の植栽、展望所や広場の整備等があります。また、従来からある作業巡視道を改良し、あるいは必要に応じて新しく遊歩道を開設し、歩道網の整備をはかるのも主要な事業となります。

昭和四十九年度は、団地内にある湧水を利用しての給水施設関係をはじめとして、その他各種利用施設の整備を行う計画であります。

魚貫崎団地

1 地域の概要

熊本市から約百五十キロメートルの地点にある魚貫崎は、「藍より青く」のテレビドラマで全国的に知られるようになった牛深市の西端にあり、天草西海岸に面し、雲仙天草国立公園の特別地域に指

定されています。

この団地の面積は五十九ヘクタールでそのほぼ中心にある遠見岳は二百二十四メートルに過ぎないので、わりあい容易に山頂へ登れます。また、一帯は海岸線からそそり立ち、傾斜はかなり急で、三方を海に囲まれ突出した岬という地形であるため、眼下に舟の出入りがよく見えるところから、古くは江戸時代に舟の出入りを監視する遠見番所が山頂に設けられていたといわれ、その跡も残っています。

山頂から北を見れば、天草西海岸の海岸線や大ヶ瀬小ヶ瀬の奇岩、西は果てしなく続く天草灘、眼下に行き交う小舟や岩礁の釣人、南を見れば、桑島や大島の離れ小島、麓の白砂輝く魚貫崎海水浴場と海洋の雄大なパノラマが展開します。

このように、県有林も含めて海岸線一帯に県内有数の磯釣場を有し、海水浴場や淡水の池も隣り合っているため、これらをセットにした保健休養の場を整備することが特に必要と考えられます。

この団地も、かつてはマツの造林が盛んにすすめられたが、マツクイムシの被害等により、往年のマツの美林は見られなくなっており、被害をまぬがれたまばらなマツの林の外には、ヒノキの植栽が行われています。

自生する植物としては、海岸性のハマヒサカキ、ヒサカキ、シャリンバイ、トベラ等が豊富に見られます。この外、天草特有のアオモジやハマビワも普通に見られ、アコウやモクダチバナ等もまれに見ることが出来ます。草本類としては、林内では、オニユリ、ノヒメユリ、ツワ



▲魚貫崎海水浴場(右)と池田の池

ブキ、タマシダ等があります。これらの中で特に見えたえがあるのは、海岸線に群落状に自生するシャリンバイであり、これが一斉開花したときでしょう。

野鳥類としては、食性のヒヨドリ、ホオジロ、メジロ等が主なものです。そして、熊本県の南西端にある位置的関係からか、渡りの時季には、ヤマガシラ等の珍種も観察されています。

2 事業の内容

昭和四十七年度事業としては、展望所予定地へコマユミやハギ類の植栽、野鳥誘致のための食餌植物の植栽、天草を代表するヤブツバキやザンカの植栽等を

行っております。

昭和四十八年度事業としては、新設あるいは改良による歩道の整備が重点となり、この外、展望所の修景、前年度植栽した場所の手入れ等があります。

昭和四十九年度は給水施設や各種利用施設を整備したいと計画しております。

むすび

高原と岬のそれぞれの自然条件や立地条件を有効に生かし、いかにそれぞれの特色を持たせた事業を行うかが、この事業を成功させるための鍵になっていると考えられます。そして、将来計画としては、現在事業実施中の県有林だけではなく、今後の発展性を秘めている隣接する地域も含めた、大規模野外レクリエーション基地づくりが望まれるところでもあります。

このためには、関係市町村と緊密な連繫を保ちながら、関係市町村の協力のもとに事業をすすめることが、今後ますます必要であろうと考えられるところ

環境林整備事業の実績と計画

区分	47年度実績		48年度計画		事業内容の説明
	ha	ha	ha	ha	
景観造成	31	21	31	21	木園、並木の相改良、園地、樹木の植栽等
風景保育	36	25	36	25	既存林の手入れ等
付帯施設			10,000	m	遊歩道の開設と改良

(県有林管理室)